



初狩駅逸品



～禅と交流の駅～ 初狩駅へ

初狩には、松尾芭蕉が初狩に約 5 か月間滞在した際に詠んだ句碑をはじめ、聖護院の大僧正となった聖護院道興が諸国を行脚し、初狩を通過した際に詠んだ歌碑、「樅の木は残った」などの著書で有名な山本周五郎の生誕碑など数々の碑が点在し、文化の足跡をたどることができます。

他にも伝統的な弁道法を真実履踐している禅の修行道場で、誰でも禅の修行体験ができる『大菩薩山瑞岳院』や、地元の野山でとれる野草を使った薬草膳を提供している『薬草膳処じゅん庵』など日常の喧騒から離れ、森林の中で自分を見つめ直してはいかがでしょうか？



食品類



野草茶・野草スープ（薬草膳処じゅん庵）



地元の野山でとれるヨモギ、セリ、タンポポ等の野草を提供しています。地産地消のローフード運動や健康志向にそって健康食養生に貢献する目的で作っています。

◆薬草膳処じゅん庵

TEL0554-25-2636

夢山水（大月市酒米生産組合）



地元、初狩地内で稲作された夢山水を笹一酒造（株）で生原酒として生産し、販売しております。

特徴としては、初狩地内で稲作された100%の玄米を使用していることです。

南蛮味噌（小林政子）



青トウガラシと甘いトウガラシをみりんなどの調味料で煮てから味噌を入れて煮詰め、かつお節などで味を調える。

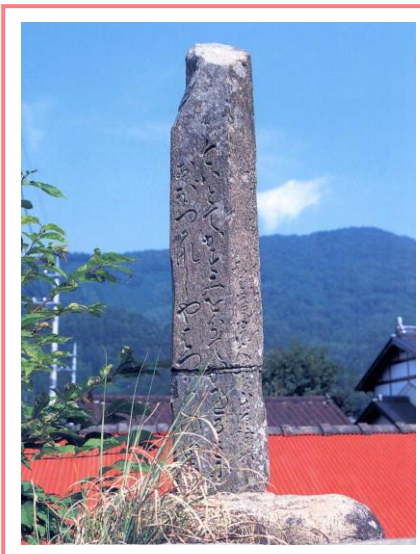
油を使わず作っているのも特徴。

◆小林政子

TEL0554-25-6561



聖護院道興歌碑（初狩町下初狩 280）

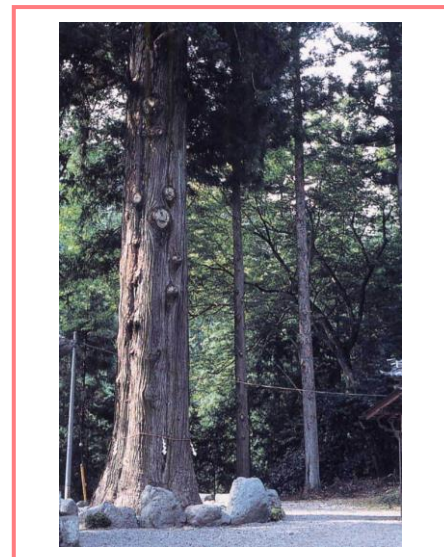


この歌の作者道興は、永享 2 年（1430）関白近衛房嗣の子として生まれ、後に本山派修験宗（山伏）の総本山である聖護院の大僧正となった人です。

道興は諸国を行脚し、各国の名所や霊場を訪ね、その様子を『廻国（かいこく）雑記（ざっき）』に記しています。

この歌は文明 19 年（1487）に初狩を通過するときに詠んだもので、碑の正面には「今はとてかすみを分けてかへるさにおぼつかなしやはつかりの里」とあります。

藤沢の大スギ（初狩町下初狩）



初狩子神社の社殿西南方の境内にあり、樹高 45m、根廻り 11.45m、地上から 40 cm の根幹境界部の周囲は 9.15m、目通幹囲 6.3m、枝下 5m。北面は上部まで枝がなく直立しています。

樹勢は旺盛で、スギの巨樹としては市内まれに見るものです。

境内には目通幹囲 2.5m を最大とするカヤの群落があり、その他モミヤケヤキ、トチノキ、ヤブツバキ、イロハカエデ、アラカシ、シデ、アサダなどの巨樹が生い茂り、素晴らしい社叢を形成しています。

瑞岳院（初狩町下初狩）



大菩薩山僧堂・瑞岳院は、伝統的な「弁道法」を真実履践している禅の修行道場です。

御開山に曹洞宗大本山永平寺・77 世貫主・瑞岳廉芳（ずいがくれんぼう）禅師を拝請し、昭和 53（1978）年に開創されました。

僧堂は大自然の中にあり、俗世間を離れた境地にいます。日常の殻を外すことができます。

修行にはだれでも体験ができます。



初狩八木節



初狩地区の秋祭りで、お神楽を踊るなか、平成元年頃から八木節も踊るようになりました。

どういう経過で上州八木節が初狩で甲州八木節として踊られるようになったかは、定かではありません。

平成10年頃に上州八木節と甲州八木節の交流会も行いました。地域の祭りや集会などで踊っています。

メンバーは、地域の婦人会の方々などが参加しています。

法雲寺の写(うつし)観音霊場 (初狩町下初狩)



法雲寺裏の観音山にある写(うつし)観音霊場とは、西国(33か所)、坂東(33か所)、秩父(34か所)や四国(88か所)などの各観音霊場に見立てた石仏を配置し、これを礼拝するための、観音霊場めぐりのミニチュア版で、現在、観音山には175体の石仏が確認されており、江戸時代の民間信仰の一端を見ることができます。

松尾芭蕉句碑 (旧初狩小学校入口)



天和2(1682)年、江戸の大火で焼け出され、この地で約5か月間を過ごした芭蕉。滞在期間中に詠んだといわれる句、「山賤のおとがいとずる 葎かな」の句碑が初狩小学校入口にあります。

この句碑は、明治29年(1896)初狩村の俳句同好の古池連中が諸国の俳人に呼びかけて建立したもので、当時高名な春秋庵三森幹雄宗匠が筆をとって、碑に刻まれる87名の中に全国の俳人が名を連ねているのをみてもその偉大さが偲ばれます。



野草入浴剤 (薬草膳処じゅん庵)



地元の旬の野草を乾燥させ野草入浴剤を作りました。ぜひ使用してお肌に活力を与えてみませんか。

◆薬草膳処じゅん庵

Tel.0554-25-2636



初狩駅逸品マップ (大月駅逸品含む)

